



N1 Grid Service Provisioning System 5.0 ユーザーガイド (Windows 2000 Plug-In)

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-1544-10
2004 年 12 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: N1 Grid Service Provisioning System 5.0 User's Guide for the Windows 2000 Plug-In

Part No: 819-0412-10

Revision A



050203@10536



目次

はじめに	7
1 Windows 2000 Plug-In の概要	11
Windows 2000 Plug-In の目的	11
Windows 2000 Plug-In に含まれる項目	11
Windows 2000 Plug-In の使用要件	12
配備サーバーの要件	12
ターゲットホストの要件	13
2 Windows 2000 Plug-In のインストールと構成	15
Windows 2000 Plug-In の取得	15
Windows 2000 Plug-In の N1 Grid Service Provisioning System への追加	15
環境に合わせたソリューションのカスタマイズ	16
3 Windows 2000 Plug-In の使用	17
ファイルとアプリケーションの取得と配備	17
▼ Windows 2000 ファイルまたはアプリケーションを取得する	18
▼ Windows 2000 ファイルまたはアプリケーションを配備する	19
コンポーネントタイプ	20
Windows アプリケーションコンポーネントタイプ	20
IIS コンポーネントタイプ	24
追加の Windows コンポーネントタイプ	28
Microsoft Windows System サービス	32
拡張コントロールサービス	33
IIS 用の拡張コントロールサービス	33

Microsoft Windows サービス用の拡張コントロールサービス 33

索引 35

表目次

表 3-1	COM+ アプリケーションのエラー状態	21
表 3-2	COM+ アプリケーション拡張コントロールプロシージャ	21
表 3-3	COM コンポーネントのエラー状態	23
表 3-4	Microsoft Windows インストーラファイルのエラー状態	24
表 3-5	IIS タイプ共通のエラー状態	25
表 3-6	レジストリキーのエラー状態	29
表 3-7	レジストリファイルのエラー状態	30
表 3-8	Microsoft Windows バッチファイルのエラー状態	31
表 3-9	Microsoft Windows Scripting Host スクリプトのエラー状態	32
表 3-10	IIS を制御する組み込みプロシージャ	33
表 3-11	Microsoft Windows サービスを制御する組み込みプロシージャ	34

はじめに

このマニュアルでは、N1 Grid Service Provisioning System のインストールと構成方法について説明します。また、N1 Grid Service Provisioning System を使用して、Windows COM、COM+、および Internet Information Services (IIS) ファイルおよびアプリケーションをプロビジョンする方法についても説明します。

対象読者

このマニュアルは、Windows 2000 ファイルおよびアプリケーションを N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアを使用して取得し配備しようと考えている N1 Grid Service Provisioning System 5.0 ソフトウェアのシステム管理者およびオペレータを対象にしています。対象読者は、次の知識があることを前提とします。

- N1 Grid Service Provisioning System 5.0 製品
- 標準の UNIX[®] および Microsoft Windows コマンドとユーティリティ
- Windows 2000、COM、COM+、および IIS に関連する一般的な概念

お読みになる前に

N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアの使用経験がない場合は、次のマニュアルの一読をお勧めします。

- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 リリースノート』

このマニュアルの構成

第1章 Windows 2000 Plug-In の概要について説明します。

第2章 Windows 2000 Plug-In のインストールと構成方法について説明します。

第3章 Windows 2000 Plug-In で提供される特定のコンポーネントとプランを使用する方法について説明します。

関連する Sun 以外の Web サイトの参照

このマニュアルで参照されている Sun 以外の URL には、関連する情報が提供されています。

注 - このマニュアルで説明する Sun 以外の Web サイトの利用については、Sun は責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って実際に発生した (あるいは発生したと主張される) いかなる損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、<http://docs.sun.com> です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

第 1 章

Windows 2000 Plug-In の概要

この章では、N1 Grid Service Provisioning System を使用した Windows 2000 アプリケーションのプロビジョニングについて説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 11 ページの「Windows 2000 Plug-In の目的」
- 11 ページの「Windows 2000 Plug-In に含まれる項目」
- 12 ページの「Windows 2000 Plug-In の使用要件」

Windows 2000 Plug-In の目的

N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアは、Windows Internet Information Services (IIS)、COM、COM+ アプリケーションがすぐに使用できる増強された機能を提供します。アプリケーションは Windows 2000 システムから取得し、このアプリケーションをどのように構成するかを厳密に選択できます。また、アプリケーションをスタンドアロン環境、管理対象環境、またはクラスタ化した Windows 2000 環境に配備できます。

Microsoft Windows IIS について

は、<http://www.microsoft.com/resources/documentation/iis/6/all/proddocs/en-us/>を参照してください。

Windows 2000 Plug-In に含まれる項目

Windows 2000 Plug-In には、複数の Windows 特有のコンポーネントタイプと、定義済みのコンポーネントおよびリソースファイルが含まれており、簡単に Windows IIS、COM、および COM+ アプリケーションを取得、構成、および配備することができます。Windows 2000 Plug-In には、次の項目が含まれます。

```
3_0_1/resources/com/sun/windows/cmdInDir.bat
3_0_1/resources/com/sun/windows/cscriptInDir.bat
3_1_1/resources/com/sun/windows/IMSABOWrapper.dll
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/Batch File CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/COM Component CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/COMPlus CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/DSN CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/Global ISAPI Filter CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/IIS Application CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/IIS Global Settings CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/IIS Site CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/MSI CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/Metabase Base CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/Registry File CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/Registry Key CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/Website ISAPI Filter CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/compTypes/Windows Scripting Host CT.xml
fiiji/components/com/sun/windows/simpleComps/jacozoom/21100220.LIC.xml
fiiji/components/com/sun/windows/simpleComps/jacozoom/JacozoomContainer.xml
fiiji/components/com/sun/windows/simpleComps/jacozoom/izmcomjni.jar.xml
fiiji/components/com/sun/windows/simpleComps/jacozoom/izmjnicom.dll.xml
fiiji/components/com/sun/windows/simpleComps/jacozoom/winutils.jar.xml
fiiji/components/com/sun/windows/simpleComps/IMSABOWrapper.dll.xml
fiiji/components/com/sun/windows/simpleComps/cmdInDir.bat.xml
fiiji/components/com/sun/windows/simpleComps/cscriptInDir.bat.xml
fiiji/components/com/sun/windows/simpleComps/plugin-win32.jar.xml
fiiji/components/com/sun/windows/simpleComps/tmp_cmdInDir.bat.xml
fiiji/components/com/sun/windows/simpleComps/tmp_cscriptInDir.bat.xml
fiiji/components/com/sun/windows/sysServices/COMPlus SS.xml
fiiji/components/com/sun/windows/sysServices/DSN SS.xml
fiiji/components/com/sun/windows/sysServices/Metabase SS.xml
fiiji/components/com/sun/windows/sysServices/Registry Key SS.xml
fiiji/components/com/sun/windows/sysServices/Windows Services SS.xml
fiiji/resources/com/sun/windows/plugin-win32.jar
fiiji/resources/com/sun/windows/jacozoom/izmcomjni.jar
fiiji/resources/com/sun/windows/jacozoom/winutils.jar
fiiji/resources/com/sun/windows/jacozoom/21100220.LIC
fiiji/resources/com/sun/windows/jacozoom/izmjnicom.dll
redmond/components/com/sun/windows/simpleComps/tmp_cmdInDir.bat.xml
redmond/components/com/sun/windows/simpleComps/tmp_cscriptInDir.bat.xml
redmond/resources/com/sun/windows/cmdInDir.bat
redmond/resources/com/sun/windows/cscriptInDir.bat
```

Windows 2000 Plug-In の使用要件

配備サーバーの要件

Windows 2000 Plug-In を配備する予定のホストは、次の要件を満たす必要があります。

オペレーティングシステム	正しいバージョンのオペレーティングシステム
ディスク容量	インストール製品用に約 236M バイトの未使用記憶領域が必要であり、約 170M バイトの一時記憶域がインストーラに要求されます。
RAM	256M バイト (最小)、512M バイト (推奨)

ターゲットホストの要件

Windows 2000 ファイルおよびアプリケーションを配備する予定のホストは、適切なバージョンの Windows 2000 オペレーティングシステムを実行している必要があります。

第 2 章

Windows 2000 Plug-In のインストールと構成

この章では、Windows 2000 Plug-In のインストールと構成について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 15 ページの「Windows 2000 Plug-In の取得」
- 15 ページの「Windows 2000 Plug-In の N1 Grid Service Provisioning System への追加」
- 16 ページの「環境に合わせたソリューションのカスタマイズ」

Windows 2000 Plug-In の取得

Windows 2000 ソリューションは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアへのプラグインとしてパッケージ化されています。プラグインは、Java™ Archive (JAR) ファイルにパッケージ化されます。Windows 2000 Plug-In ファイルは、N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Supplement CD からインストールするか、Sun ダウンロードセンターから入手できます。

Windows 2000 Plug-In の N1 Grid Service Provisioning System への追加

指定のプラグインを N1 Grid Service Provisioning System 製品に認識させるには、プラグインをインポートする必要があります。プラグインは、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』の第 5 章「プラグインの管理」で説明する手順に従ってインポートしてください。

1. メインウィンドウの「Administrative」セクションで、「Plug-ins」をクリックします。

2. 「Plug-ins」ページの「Action」カラムで、「Import」をクリックします。
3. `com.sun.windows_1.1.jar` ファイルをダウンロードした場所へ移動します。
4. 「Continue to Import」ボタンをクリックします。

インポートが正常に終了したら、プラグインの詳細ページが現れ、プラグインによって提供されるオブジェクトが表示されます。

プラグインアーカイブファイルは、コマンドラインからインポートすることもできます。次のコマンドを使用します。

```
% cr-cli -cmd plg.p.add -path com.sun.windows_1.1.jar -u username -p password
```

環境に合わせたソリューションのカスタマイズ

プロビジョニングソフトウェアインタフェースから、指定のフォルダに次のアクセス許可を与える必要があります。

- `/com/sun/windows` フォルダ
 - ユーザーが配備する予定のホスト上で、Windows 2000 Plug-In コンポーネントを使用する配備担当ユーザーに、`allow on host set` アクセス許可を与えます。さらに、準備する予定のホスト上で、Windows ホストを準備する予定のすべてのユーザーにこのアクセス許可を与えます。
 - `run component procedures` アクセス許可は、必要な場合にのみ与えます。このアクセス許可は、非運用システムでのみ、あるいは信頼される管理ユーザーに対して付与することを推奨します。このアクセス許可は、`com.sun.windows#services` システムサービスが直接実行されるのを許可します。これらのサービスとして、サービスの起動と停止の制御、バッチファイルと `cscript` ファイルの実行、および MSI の管理が含まれます。
- `/com/sun/windows/jacozoom` フォルダ
 - 準備する予定のホスト上で、Windows ホストを準備する予定のすべてのユーザーに、`allow on host set` アクセス許可を与えます。

第 3 章

Windows 2000 Plug-In の使用

この章では、Windows 2000 アプリケーションおよびファイルを取得し配備する方法について説明します。この章では、次の情報について説明します。

- 17 ページの「ファイルとアプリケーションの取得と配備」
- 20 ページの「コンポーネントタイプ」
- 32 ページの「Microsoft Windows System サービス」
- 33 ページの「拡張コントロールサービス」

ファイルとアプリケーションの取得と配備

「Windows common tasks」ページを使用して、次の Windows 2000 エンティティ用のコンポーネントを表示したり作成することができます。

- Windows アプリケーションは、次の 3 タイプに分かれます。
 - COM+ アプリケーション
 - COM オブジェクト
 - Microsoft Windows インストーラファイル (.msi)
- Internet Information Server (IIS) アプリケーションおよびサポートファイルは、次の 5 タイプに分かれます。
 - IIS アプリケーション
 - IIS web サイトまたは仮想ディレクトリ設定
 - IIS グローバル設定
 - ISAPI グローバルフィルタ設定
 - ISAPI web サイトフィルタ設定
- その他の Windows の共通ファイルは、次の 5 タイプに分かれます。
 - レジストリキー

- レジストリファイル
- データソース名
- バッチファイル
- スクリプティングホストスクリプト

▼ Windows 2000 ファイルまたはアプリケーションを取得する

システム間にわたってファイルまたはアプリケーションを配備する前に、このファイルまたはアプリケーションを N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアに認識させ、それをコンポーネントに含める必要があります。

注 - 実行する一般的な手順は、すべてのコンポーネントタイプで同じですが、詳細手順は、使用する必要のある実際のタイプによって異なります。

- 手順
1. 左コントロールパネルの「**Common Tasks**」セクションの下にある **Windows** アイコンを選択します。
 2. 作成するコンポーネントタイプの横にある「**Create New link**」をクリックします。
たとえば、バッチファイルを含むコンポーネントを作成するには、次の手順を実行します。
 - a. 「**Additional Windows Tasks**」セクションに進みます。
 - b. 「**Create New next to Windows Batch File**」をクリックします。
 3. 「**Components Details Edit**」ページで、適切な情報を入力します。
たとえば、バッチファイルの場合、次の情報を入力します。
 - a. コンポーネントの名前を入力します。
 - b. バッチファイルを入手するホストを選びます。
 - c. ホストのファイルシステム階層内を移動し、バッチファイルを選択します。
 4. 「**Check in Selected Item**」をクリックします。

参考 コマンド行の使用

コンポーネントは、コマンド行を使用して作成することもできます。コマンドについての詳細は、『*N1 Grid Service Provisioning System 5.0 コマンド行インタフェース (CLI) リファレンスマニュアル*』の「cdb.rsrc:コンポーネントの管理」を参照してください。

- バッチファイル、コマンドファイル、または動的リンクのライブラリファイルなど、単純なファイルには、次のコマンドを使用します。 `cr_cli -cmd cdb.rsrc.ci -src filename -dst component-name -u username -p password`
- ここで:
- `filename` は、チェックインするファイルの名前になります。
 - `component-name` は、コンポーネントに使用する名前になります。
- COM+ アプリケーション、レジストリキー、またはデータソース名など、ブラウズする必要のあるファイルについては、コマンドはより複雑になります。ファイルをエクスポートした場合、「Exported File Browser」を使用してファイルをチェックインできます。コマンドでは、`sourcePath` を指定する必要があります。`sourcePath` は、このコンポーネントタイプのファイルをブラウズしたときにブラウザインタフェースに表示されるパスのことです。
- 以下の例では、ファイル `dsn.n1test` からデータソース名をチェックインします。

```
%> cr_cli -cmd cdb.rsrc.ci
      -src exported/dsn.n1test
      -dst dsn.n1test
      -type 'com.sun.windows#data source name'
      -platform 'NM:system#Windows 2000 Server'
      -pickerName 'Exported File Browser'
      -extraOpts sourcePath='System DSNn\\1test\'
      -u **** -p ****
```

▼ Windows 2000 ファイルまたはアプリケーションを配備する

- 手順
1. 以下の説明に従って、コンポーネントを取得します。
 2. **N1 Grid Service Provisioning System** アプリケーションの「**Components**」セクションへ進みます。
 3. 配備するコンポーネントを選択します。
配備するコンポーネントのタイプに応じて、変数を定義したり、あるいはほかの手順を実行します。最低でも、以下に示す手順は実行します。
 4. 「**Default:Install**」プロシージャの横にある「**Run in the Actions**」カラムをクリックします。
インストールプロシージャを実行するための「**plan details**」ページが現れます。
 5. ターゲットホストを選択します。
ターゲットホストは、配備するコンポーネントを適用するホストになります。たとえば、Microsoft Windows IIS アプリケーションを Windows 以外のホストに配備するのは適切ではありません。

6. 「Run Plan」をクリックします。

コンポーネントタイプ

ブラウザインタフェースを反映するために、このプラグイン用のコンポーネントタイプは、3つの部分にグループ化されています。

- Windows アプリケーションコンポーネントタイプ
- IIS コンポーネントタイプ
- 追加の Windows コンポーネントタイプ

Windows アプリケーションコンポーネントタイプ

Windows アプリケーションコンポーネントタイプは、3タイプあります。

- 20 ページの「COM+ アプリケーションコンポーネントタイプ」
- 22 ページの「COM Component コンポーネントタイプ」
- 23 ページの「Microsoft Windows Installer File (*.msi) コンポーネントタイプ」

COM+ アプリケーションコンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントは、COM+ アプリケーションを表します。COM+ アプリケーションは、1つの単位で扱われます。設定と内容は、グループとしてインストールされます。

COM+ アプリケーションのブラウザ

COM+ アプリケーションをブラウズすると、ターゲットシステム上の COM+ アプリケーションがアルファベット順でブラウザに表示されます。

チェックインする単一の COM+ アプリケーションを選択することができます。COM+ アプリケーションには子がないため展開できません。

エクスポート/内部ファイル形式

COM+ アプリケーションは、COM+ Admin SDK を使用して Microsoft Windows Installer (MSI) ファイルにエクスポートされます。

コンポーネントの比較

COM+ アプリケーションは、MSI ファイルとしてターゲットシステムに再エクスポートされ、アプリケーションのインストールに使用された MSI ファイルと比較されます。ソフトウェアは、差があることのみを示し、差の詳細は示しません。

COM+ アプリケーションのインストール

- 同じ名前の COM+ アプリケーションがターゲットシステムにすでにインストールされており、サービスとして実行されている場合、既存のアプリケーションは、実行されている依存サービスと共に停止します。COM+ アプリケーションはその後、COM+ カタログから削除されます。
- 新しい COM+ アプリケーションは、COM+ Admin SDK を使用してインストールされます。
- COM+ アプリケーションを起動するには、COM+ アプリケーションを起動する startApp 呼び出し手順を、手動で使用する必要があります。

COM+ アプリケーションのアンインストール

COM+ アプリケーションは、COM+ Admin SDK を使用してアンインストールされません。

エラー状態

表 3-1 COM+ アプリケーションのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	同じ名前の COM+ アプリケーションがすでに存在しており、それを停止できないか、依存サービスを停止することができない	インストールに失敗する
アンインストール	インストールに使用した MSI ファイルを利用できない	アンインストールに失敗する
インストールまたはアンインストール	リモートエージェントが管理特権を持っていない	インストールまたはアンインストールに失敗する

拡張コントロールプロシージャ

表 3-2 COM+ アプリケーション拡張コントロールプロシージャ

名前	パラメータ	説明
startApp	appName - COM+ アプリケーションのフルネーム	サービスとして実行される場合、COM+ アプリケーションを起動する
stopApp	appName - 停止する COM+ アプリケーションのフルネーム	COM+ アプリケーションとすべての依存サービスを停止する

表 3-2 COM+ アプリケーション拡張コントロールプロシージャー (続き)

名前	パラメータ	説明
stopRouter	なし	COM+ 経路制御サービスを停止する
startRouter	なし	COM+ 経路制御サービスを起動する
installAsUser	<i>rsrcSrcPath</i> - COM+ アプリケーションの名前 <i>rsrcInstallPath</i> - アプリケーションを表す *.msi ファイルのパス <i>userID</i> - アプリケーションを実行するユーザー <i>password</i> - ユーザーのパスワード	特定のユーザーとして実行される COM+ アプリケーションのインストールを可能にする

COM Component コンポーネントタイプ

このコンポーネントタイプは、COM ファイルを表します。

ブラウズ

このコンポーネントタイプ用のファイルを選択するには、ファイルブラウザから *.ocx または *.dll ファイルを選択します。

コンポーネントの比較

COM コンポーネントは、バイナリファイルで、インストール時に使用されたファイルと比較されます。ソフトウェアは差があることのみを示し、差の詳細は示しません。

COM コンポーネントのインストール

次のコマンド行を使用して、Regsvr32 ユーティリティを呼び出し、DLL に COM コンポーネントを登録します。

```
regsvr32.exe /s file path
```

COM コンポーネントのアンインストール

次のコマンド行を使用して、Regsvr32 ユーティリティを呼び出し、DLL の COM コンポーネントを登録解除します。

```
regsvr32.exe /s /u <file path>
```

DLL が登録解除されたあと、ターゲットシステムから削除されます。

エラー状態

表 3-3 COM コンポーネントのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	指定した .dll または .ocx ファイルに COM コンポーネントが含まれていない	インストールに失敗する
アンインストール	指定した .dll または .ocx ファイルに COM コンポーネントが含まれていない	アンインストールに失敗する

Microsoft Windows Installer File (*.msi) コンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントとして、Microsoft Installer (MSI) ファイルが含まれます。

ブラウズ

このコンポーネントタイプ用のファイルを選択するには、ファイルブラウザから *.msi ファイルを選択します。

MSI ファイルのインストール

Microsoft Windows インストーラサービスを MSI ファイルで呼び出して、ターゲットシステムにインポートするには、次のコマンドを使用します。

```
msiexec /qn /i file path
```

MSI ファイルのアンインストール

Microsoft Windows インストーラサービスを、インストール時に使用した MSI ファイルで呼び出して、パッケージをアンインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
msiexec /qn /x file path
```

msiexec の実行が完了したあと、MSI ファイルは削除されます。

エラー状態

表 3-4 Microsoft Windows インストーラファイルのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	指定の *.msi ファイルは、正しい Microsoft Windows インストーラファイルではない	インストールに失敗する
インストール	エージェントは、インストールを実行するための正しいアクセス許可を持っていない	インストールに失敗する
アンインストール	パッケージはすでにアンインストールされている	アンインストールに失敗する

IIS コンポーネントタイプ

IIS コンポーネントタイプは、いくつかの共通情報を共有し、複数のコンポーネントタイプで構成されます。

- 24 ページの「[共通 IIS コンポーネントタイプの形式、エラー、および機能](#)」
- 26 ページの「[IIS Global Filter Settings コンポーネントタイプ](#)」
- 26 ページの「[IIS Web Site Filter Settings コンポーネントタイプ](#)」
- 27 ページの「[IIS Global Settings コンポーネントタイプ](#)」
- 28 ページの「[IIS Website \(IIS Virtual Directory\) コンポーネントタイプ](#)」
- 28 ページの「[IIS Website Filter コンポーネントタイプ](#)」

共通 IIS コンポーネントタイプの形式、エラー、および機能

IIS コンポーネントタイプは、共通の実装を共有します。IIS メタベースに格納されているデータは、すべての IIS コンポーネントタイプでエクスポート、インストール、および削除することができます。共通の振る舞いを可能にするために、これらのコンポーネントタイプは一連の機能、形式、およびエラーを共有しています。

共通 IIS ブラウザ

IIS コンポーネントをブラウズすると、ターゲットシステム上の web サイトおよび仮想ディレクトリのリストがブラウザに表示されます。これらの項目は、メタデータベースに現れる順に表示されます。これは、IIS コントロールパネルに現れる項目の順序と同じです。アルファベット順ではありません。

1 つの web サイトか仮想ディレクトリを選択できます。web サイトの選択は、再帰的とみなされます。web サイトをダブルクリックすると、web サイト上の仮想ディレクトリのリストが表示されます。

エクスポート/内部ファイル形式

すべての IIS タイプは、XML 形式を使用して、メタベースのそれらのセクションを格納します。現行の XML 形式は、NTACL (AdminACL など) タイプのメタベースプロパティをサポートしていません。メタベースの読み取りまたは書き込み時にこのタイプのプロパティが見つかった場合、それらは無視されます。さらに、IPSec (IPSecurity など) タイプのプロパティは、シリアライズされたオブジェクトとして書き出されます。これらのオブジェクトは、直接調べている間も、また出力された差分情報も判読不可能です。

差分

スナップショット時、メタベースの現在の状態が XML ファイルにエクスポートされます。M-I 差分時、メタベースは再エクスポートされ、元の XML ファイルと比較されます。これらのファイルの差分生成には、標準の XML differentiator が使用されず。

エラー状態

表 3-5 IIS タイプ共通のエラー状態

アクション	状態	結果
インストール/エクスポート	IIS が存在しないか、パーションが正しくない	インストール/エクスポートに失敗する
インストール/アンインストール	リモートエージェントが管理特権を持っていない	インストール/アンインストールに失敗する

IIS web サイトまたは仮想ディレクトリ設定

IIS web サイトまたは仮想ディレクトリのための設定を表します。このコンポーネントタイプは、web サイトと仮想ディレクトリのための設定のみを含みます。web サイト上の内容は、別リソースとしてチェックインされなければなりません。

IIS Web サイトまたは仮想ディレクトリのインストール

インストールは、XML ファイルを読み込んで、そのファイルをターゲットシステムのメタベースにインポートすることで行われます。同じ名前の web サイトが存在する場合、古い web サイトは上書きされます。システム上に同じ名前の複数の web サイトが存在する場合、最初に見つかった web サイトが削除され上書きされます。

特殊なケースとして、アンタイプキーまたはノード、および SSL 証明書などが含まれますが、それらは配備されません。IIS (SSLCertHash および SSLStoreName) 中の SSL 証明書に関連する設定がターゲットシステム内に存在する場合、それらは配備時に保持されます。関連する SSL 設定が存在しない場合に、設定が追加されることはありません。

サイトが配備または再配備されたあとで、セキュリティ保護されたサイトを立ち上げるには、IIS を再起動する必要があります。

IIS Web サイトまたは仮想ディレクトリのアンインストール

web サイト全体が、ターゲットシステムから削除されます。web サイト上の仮想ディレクトリは、プロビジョニングソフトウェアによってインストールされたかどうかにかかわらず、削除されます。設定が仮想ディレクトリ専用の場合、そのディレクトリのみが削除され、それを含むサイトは削除されません。アンインストールは、名前の一致によって行われるため、システム上で最初に見つかった同じ名前の web サイトがアンインストールされます。このプロセスが完了したら、インストール時に使用された XML ファイルが削除されます。

IIS Global Filter Settings コンポーネントタイプ

このコンポーネントタイプは、グローバル IIS フィルタ設定を表すのに使用されます。このコンポーネントタイプは、IIS グローバルフィルタのための設定のみを含みます。フィルタを実装する実際の DLL は、別にインストールする必要があります。

IIS グローバルフィルタのブラウズ

IIS グローバルフィルタ設定コンポーネントをブラウズすると、ターゲットシステム上のグローバルフィルタのリストがブラウザに表示されます。これらのフィルタは、メタデータベースに現れる順に表示されます。これは、IIS コントロールパネルに現れる項目の順序と同じです。アルファベット順ではありません。

1 つのフィルタを選択することができます。フィルタは展開できません。

IIS グローバルフィルタのインストール

インストールは、XML ファイルを読み込んで、そのファイルをターゲットシステムのメタベースにインポートすることで行われます。同じ名前のフィルタ設定がターゲットマシンに存在する場合、既存のフィルタ設定は上書きされます。

IIS グローバルフィルタのアンインストール

フィルタ設定は、ターゲットシステム上で削除されます。設定が削除されたら、インストール時に使用された XML ファイルが削除されます。

IIS Web Site Filter Settings コンポーネントタイプ

このコンポーネントタイプは、web サイトフィルタのための設定のみを含みます。フィルタを実装する実際の DLL ファイルは、別にインストールする必要があります。

Web サイトフィルタ設定のブラウズ

IIS web サイトフィルタ設定コンポーネントをブラウズすると、ターゲットシステム上のグローバルフィルタのリストがブラウザに表示されます。これらのフィルタは、メタデータベースで検索された順に表示されます。これは、IIS コントロールパネルに現れる項目の順序と同じです。アルファベット順ではありません。

web サイト用のフィルタリストを表示するには、web サイトを展開する必要があります。チェックインするすべての web サイトフィルタを選択することも、個々のフィルタを選択することもできます。

web サイトフィルタ設定のインストール

インストールは、XML ファイルを読み込んで、そのファイルをターゲットシステムのメタベースにインポートすることで行われます。同じ名前のフィルタ設定がターゲットマシンに存在する場合、既存のフィルタ設定は上書きされます。

web サイトフィルタ設定のアンインストール

フィルタ設定は、ターゲットシステム上で削除されます。設定が削除されたら、インストール時に使用された XML ファイルが削除されます。

IIS Global Settings コンポーネントタイプ

このコンポーネントタイプは、グローバル IIS 設定を表すのに使用されます。

グローバル設定のブラウズ

IIS グローバル設定コンポーネントをブラウズすると、ターゲットシステム上の設定のリストがブラウザに表示されます。これらの設定は、メタデータベースで検索された順に表示されます。

チェックインする単一の設定を選択できます。設定に子は含まれないため、展開できません。

グローバル設定のインストール

インストールは、XML ファイルを読み込んで、そのファイルをターゲットシステムのメタベースにインポートすることで行われます。ターゲットシステムに設定が存在する場合、その設定は上書きされます。

グローバル設定のアンインストール

グローバル設定はアンインストールできません。アンインストールを行っても、インストール時に使用された XML ファイルが削除されるだけで、ターゲットシステムに影響はありません。

IIS Website (IIS Virtual Directory) コンポーネントタイプ

IIS Website (IIS Virtual Directory) コンポーネントタイプは、次の 4 つのコンポーネントを含む複合コンポーネントタイプです。

- IIS web サイトまたは仮想ディレクトリ設定を含むコンポーネント
- IIS 仮想ディレクトリセットを識別するコンポーネント
- IIS web サイトフィルタセットを定義するコンポーネント
- ディレクトリを含むコンポーネント

IIS Website Filter コンポーネントタイプ

IIS Website Filter コンポーネントタイプは、次の 2 つのコンポーネントを含む複合コンポーネントタイプです。

- IIS web サイトフィルタ設定を含むコンポーネント
- COM オブジェクトを含むコンポーネント

追加の Windows コンポーネントタイプ

Windows 2000 Plug-In は、さらにいくつかの追加コンポーネントタイプを提供します。

- [28 ページの「Registry Keys コンポーネントタイプ」](#)
- [29 ページの「Registry File コンポーネントタイプ」](#)
- [30 ページの「Data Source Name コンポーネントタイプ」](#)
- [31 ページの「Microsoft Windows Batch File コンポーネントタイプ」](#)
- [32 ページの「Microsoft Windows Scripting Host Script コンポーネントタイプ」](#)

Registry Keys コンポーネントタイプ

このコンポーネントタイプは、レジストリキーとその関連値を表すのに使用されます。

ブラウズ

レジストリキーを探しブラウズすると、ターゲットシステム上の主レジストリルートからのレジストリキーのリストが、ブラウザに表示されます。主レジストリルートには、HKEY_LOCAL_MACHINE、HKEY_CLASSES_ROOT、HKEY_CURRENT_USER、HKEY_USERS、および HKEY_CURRENT_CONFIG が含まれます。これらの項目は、レジストリに表示される順に現れます。

チェックインする個々のキーを選択できます。キーを選択すると、キーとそのすべての子がチェックインされます。キーをダブルクリックすると、値が見つかるまで下方向に再帰的にチェックされます。値の名前は表示されますが、その内容は表示されません。値は、個別にエクスポートできます。

エクスポート/内部ファイル形式

レジストリキーは、XML ファイルにエクスポートされます。

レジストリキーのバージョン間の違い

スナップショットの実行時、レジストリキーの現在の状態 (キーの子を含む) が XML ファイルにエクスポートされます。差分チェック時、レジストリキーは再エクスポートされ、元の XML ファイルと比較されます。これらのファイルの差分生成には、標準の XML difference comparator が使用されます。

レジストリキーのインストール

レジストリを表す XML ファイルは、execJava ステップを使用して、読み取られてターゲットシステムにインポートされます。値がターゲットシステムにすでに存在するキーは、すべて上書きされます。

レジストリキーのアンインストール

execJava 実装は、エクスポートされたキーのルートを調べ、その下のすべてのキーと値を削除します。そのルートが値の場合は、それも削除されます。

エラー状態

表 3-6 レジストリキーのエラー状態

アクション	状態	結果
インストールまたはアンインストール	リモートエージェントが管理特権を持っていない	インストールまたはアンインストールに失敗する

Registry File コンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントは、レジストリファイル (*.reg) を含みます。レジストリファイルとは、レジストリメタベースに追加またはメタベースから削除するキーおよび値を指定するテキストファイルです。

注 - プロビジョニングソフトウェアは、レジストリファイルのバージョン間の違いを比較しません。レジストリファイル間の違いを見るには、代わりに Registry Keys コンポーネントタイプを使用します。

レジストリファイルのブラウズ

このコンポーネントタイプ用のファイルを選択するには、ファイルブラウザから *.reg ファイルを選択します。

レジストリファイルのインストール

Regedit /s *file path* は、*.reg ファイルで呼び出され、その変更内容をレジストリに書き込みます。

レジストリファイルのアンインストール

アンインストール時、インストール時に使用された *.reg ファイルのみが削除されます。レジストリファイル内のレジストリキーは削除されません。レジストリのアンインストールを有効にするには、Registry Keys タイプを使用してください。

エラー状態

表 3-7 レジストリファイルのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	指定した *.reg ファイルが、regedit のための正しい形式ではない	インストールに失敗する
インストール	*.reg ファイルで指定されたレジストリセクションへの書き込みアクセス許可をエージェントが持っていない	インストールに失敗する

Data Source Name コンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントは、データベースに接続するための ODBC 設定を表します。これらの設定は、システム上の「Data Source Administrator」コントロールパネルで変更できます。実際の設定は、レジストリ内の特定の場所に格納されます。その結果、Data Source Name (DSN) リソースタイプが、Registry Keys リソースタイプの上に構築されます。DSN インストール、エクスポート、およびアンインストール機能は、Registry Key リソースハンドラーが提供する機能を直接使用します。DSN ブラウザは Registry ブラウザと似ており、「Data Source Administrator」コントロールパネルに近い機能を提供します。

DSN ファイルのブラウズ

DNS コンポーネントをブラウズすると、ターゲットシステム上の主レジストリルートからの DSN ファイルのリストが、ブラウザに表示されます。DSN ルートには、User と System が含まれます。DSN ファイルはアルファベット順に表示されます。

チェックインする個々の DSN ファイルを選択できます。System および User ルートをダブルクリックすると、含まれている DSN エントリが表示されます。

エクスポート/内部ファイル形式

エクスポートでは、レジストリ階層の同じレベルにある「ODBC Data Sources」キー内の同じ名前の値だけでなく、DSN 設定をすべて含むキーをエクスポートします。

DSN ファイルのアンインストール

DSN のアンインストールは、レジストリのアンインストールに基づいています。削除されるパスは、利用可能な DSN 設定を表示するために DSN ユーザーインターフェースが使用するキーではなく、DSN 設定を含むキーであることに注意してください。同様に、このキーを削除するための特殊なロジックがあります。このプロセスのセマンティクスは、レジストリアンインストールのセマンティクスとわずかに異なりますが、両プロセスとも同じエグゼキュータを使用します。

エラー状態

DSN システムコンポーネントは、レジストリシステムコンポーネントのインストールメソッドを直接呼び出します。実装とエラーの詳細については、[28 ページ](#)の「[Registry Keys コンポーネントタイプ](#)」[28 ページ](#)の「[Registry Keys コンポーネントタイプ](#)」を参照してください。

Microsoft Windows Batch File コンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントは、Windows バッチファイル *.bat またはコマンドファイル *.cmd を含みます。

ブラウズ

このタイプのコンポーネントを作成する場合、*.bat または*.cmd 拡張子が付くファイルのみを表示するようにファイルブラウザを設定できます。

エラー状態

表 3-8 Microsoft Windows バッチファイルのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	指定したバッチファイルが有効なバッチファイルでないか、エラーが含まれている	インストールに失敗する

Microsoft Windows Scripting Host Script コンポーネントタイプ

このタイプのコンポーネントは、Microsoft Windows scripting host (WSH) スクリプトを含みます。これらのファイルは、vbscript (*.vbs) または jscript (*.js) によって作成されたテキストファイルです。これらのファイルは、XML プロジェクトファイル (*.wsf) に含まれることもあります。

Scripting Host スクリプトのブラウズ

このタイプのコンポーネントを作成する場合、*.js、*.vbs、または *.wsf 拡張子が付くファイルのみを表示するようにブラウザを設定できます。

Scripting Host スクリプトのアンインストール

このタイプのコンポーネントをアンインストールすると、スクリプトファイルはターゲットホストから削除されます。ただし、そのスクリプトが実行したアクションは取り消されません。

エラー状態

表 3-9 Microsoft Windows Scripting Host スクリプトのエラー状態

アクション	状態	結果
インストール	指定したファイルが有効な *.wsf ファイルでないか、エラーが含まれている	インストールに失敗する

Microsoft Windows System サービス

Microsoft Windows System Component は、特定のコンポーネントタイプと関連する windows システム以外に、異なる windows システムと対話するためのユーティリティを提供します。プラグインは、次の 5 つの Windows 特有のシステムサービスを含みます。

- com.sun.windows#COM+ application services
- com.sun.windows#data source name services
- com.sun.windows#metabase services
- com.sun.windows#registry key services
- com.sun.windows#services

拡張コントロールサービス

拡張コントロールサービスは、リソースまたはコンポーネントと関連するソフトウェアオペレーティングを行うプロシージャです。これらのサービスは、Microsoft IIS Web Server の起動と停止のためのサービスと、特定の Microsoft Windows サービスの起動と停止のためのサービスを含みます。プロビジョニングソフトウェアは、2組の拡張コントロールサービスを含みます。これらは、個々のリソースタイプに特有ではありません。

- 一般目的のコントロールサービス。任意のコンポーネントまたはプランから呼び出されます。
- リソースタイプ特有のコントロールサービス。リソースの特定のタイプに関連付けられ、これらのリソースタイプを持つリソースを含むコンポーネントまたはプランからのみ呼び出されます。

一般目的のコントロールサービスには、Microsoft Windows サービスの起動と停止のための機能が含まれます。これらのコントロールサービスは、任意のコンポーネントまたはプランから呼び出すことができます。

リソースタイプ特有のコントロールサービスの例として、COM+ Application リソースタイプで含まれる startRouter プロシージャがあります。このプロシージャは、COM+ 経路制御サービスを起動します。このサービスは、COM+ Application リソースタイプのリソースとのみ動作します。

IIS 用の拡張コントロールサービス

以下の表は、IIS を制御するプロシージャを示しています。

表 3-10 IIS を制御する組み込みプロシージャ

名前	パラメータ	説明
stopIIS	なし	IIS プロセスの停止
startIIS	なし	起動していない場合、IIS を再起動する

Microsoft Windows サービス用の拡張コントロールサービス

コンポーネントまたはプランは、特定の Microsoft Windows サービスを含むことがあります。

次の表は、Microsoft Windows サービスを制御するプロシージャを説明しています。

表 3-11 Microsoft Windows サービスを制御する組み込みプロシージャー

名前	パラメータ	説明
stopService	serviceName - 停止するサービスの名前	サービスを停止する
startService	serviceName - 起動するサービスの名前	Microsoft Windows サービスを起動する

索引

J

JAR ファイル, 15
Java Archive, 「JAR ファイル」を参照

W

windows Plug-In
 インポートする, 15-16
 構成, 16
Windows Plug-In
 ターゲットホストの要件, 13
 配備サーバーの要件, 12-13

あ

アプリケーションの取得, 18-19

た

ターゲットホストの要件, 13

は

配備サーバーの要件, 12-13

ふ

プラグインファイル
 インポートする, 15-16
 の場所, 15
プラグインをインポートする, 15-16
プラグインを構成する, 16

